

**名古屋大学大学院生命農学研究科**  
**附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド（附属農場）**  
**「農場講演会」のお知らせ**

名古屋大学大学院生命農学研究科附属フィールド科学教育研究センター東郷フィールド（附属農場）では、地域貢献事業の一環として、以下の講演会を開催します。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

第1回 8月6日（火） 午後2時00分～3時30分

「植物に花を咲かせるフロリゲン」

講師 辻 寛之 先生（名古屋大学生命機能開発利用研究センター）

植物は美しい花で私たちを楽しませてくれます。花が咲けば実りがもたらされ、私たちは美味しい果実を得ることができます。このように私たちの生活に寄り添い支える植物の花はどのように作られるのでしょうか？多くの植物は決まった季節に花を作り咲かせます。植物は発芽した後ずっと葉を作り続けていたのに、いったいどんな仕組みで葉を作ることをやめて花を作ることを始めるのでしょうか？それは花を作るための最強の運命決定因子・フロリゲンのはたらきによるものです。フロリゲンの正体は長い間植物学の最大の謎の一つでしたが、最近その正体が解明されました。ここではフロリゲンの正体とはたらきについて紹介します。

場所：東郷町役場 2階大会議室

〒470-0198 愛知郡東郷町大字春木字羽根穴1番地（駐車場あり）

<http://www.town.aichi-togo.lg.jp/>

参加費：無料（事前の申し込みは不要です）

主催：名古屋大学大学院生命農学研究科

後援：東郷町

問い合わせ先：東郷フィールド事務室

電話：0561-37-0200、メール：field-c@t.thers.ac.jp

今後の農場講演会の予定

第2回 10月26日（土） 午後2時00分～3時30分

「なぜ小豆餡は紫色なのか —さまざまな豆類の種皮に含まれる成分とその機能—」

講師 吉田 久美 先生（愛知淑徳大学食健康科学部）

※第2回農場講演会の会場は、名古屋大学東郷フィールド（附属農場）「農業館」です。

豆類は、根粒菌による窒素固定により痩せた土壌でも栽培ができ、人類が古くから食用栽培してきた植物です。現在でも穀類に次いで重要な作物として、世界中で栽培され、食されています。食用豆類には実に様々な種類がありますが、日本で主に食されている豆類には大豆、小豆、インゲン豆、落花生があり、その種類によって、タンパク質やミネラル、食物繊維が豊富です。ところで、豆類の中には、黒豆、小豆、金時豆など、色のついた種皮の豆類がいろいろあります。その色はどのような成分によるのでしょうか。また、色素以外に種皮にはどのような成分が含まれているのでしょうか。私たちの研究を元に、豆種皮の成分についてお話します。